

浦安の夏。

ドキュメンタリーの夏。



セバスチャン・サルガド/地球へのラブレター ©Sebastião Salgado ©Donata Wenders ©Sara Rangel©Juliano Ribeiro Salgado

URAYASU DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2016

第5回

うらやすドキュメンタリー映画祭

浦安から持続可能な社会を考える

2016年7月17日(日)18日(月祝)

浦安市民プラザ Wave101 大ホール

主催：浦安ドキュメンタリーオフィス

フィルム提供：アーティストアクション、太秦、シグロ、テレビ長崎、ノンデライコ、風楽創作事務所=オリオフィルムズ、ユナイテッドピープル、RESPECT×トランスフォーマー

「浦安から持続可能な社会を考える」をコンセプトに開催している映画祭は今年で5回目。忘れてはいけない記録を刻んだ映画、社会の豊かな可能性を提示する映画を集めました。日曜に観るか？ 月曜に観るか？ 歩いて観に行ける、わが町の映画祭です。

7/17 (日) 開場 10:30 越えてゆく 日曜日

風景を越えてゆく

セバスチャン・サルガド/地球へのラブレター 11:00



監督: ヴィム・ヴェンダース、ジュリアーノ・リペイロ・サルガド
2014年/フランス・ブラジル・イタリア/110分

ブラジル出身の写真家セバスチャン・サルガドは世界各地を飛び回って、見る者の心を揺さぶる作品を数多く発表してきた。神の眼を持つと称されるサルガドの足跡を、巨匠ヴィム・ヴェンダースが解き明かしていく壮大なドキュメント!

2015年 アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞ノミネート
2015年 セザール賞ドキュメンタリー賞
2014年 カンヌ国際映画祭ある視点特別賞 など

歴史を越えてゆく

沖縄 うりずんの雨 13:20

★ジャン・ユンカーマン監督



監督: ジャン・ユンカーマン 2015年/日本/148分
沖縄から遠く離れて……我々は沖縄の何を知っているだろうか? 「老人と海」「映画日本国憲法」のジャン・ユンカーマン監督が、いまなお真の平和を求めて不屈の闘争を続けている沖縄の人々を描いた2時間28分の大作(「沖縄戦」「占領」「凌辱」「明日へ」の4部構成)。この映画を観なければ「沖縄」は語れない!

2015年度 キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位
2015年度 毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞

3.11 を越えてゆく

大地を受け継ぐ 16:35

★井上淳一監督



監督: 井上淳一 2015年/日本/86分
東京の学生たちが一台のバスで福島へ向かう。迎えるのは農家の息子と母親。原発事故で父を奪われ、土を汚され、それでも先祖代々の土地を捨てるわけにはいかないと、土を耕し作物を育て続ける。次々と押し寄せる内外の葛藤を、息子が、母が、静かに語る。聴いた学生たちは、何を想い、何を受け継ぐのか。

海難事件を越えてゆく

ダイビング・ベル セウォル号の真実 18:45

★関係者(予定)



監督: アン・ヘリョン、イ・サンホ
2014年/韓国/77分

2014年4月16日、476人が乗っていた旅客船セウォル号が珍島沖合で沈没する。行方不明者捜索のため潜水工事事務会社イ・ジョンイン代表は、潜水機器ダイビング・ベルの使用を提案するが、海洋警察は現場への進入を許可しない。独立メディアのイ・サンホ記者が目撃した、主要メディアが報じない真実とは…。釜山国際映画祭では政治介入を受けながらも上映した話題作。

2015年 第29回福岡アジア映画祭グランプリ
2014年 第19回釜山国際映画祭正式出品

★の回は上映後にトークイベントがあります

- 入場後、入れ替えはありません。
- 上映スケジュールは変更になる場合があります。
- 映画祭の最新情報はホームページをご覧ください。

www.urayasu-doc.com 浦安ドキュメンタリーオフィス 検索

映画祭twitter: @UDFF2011 facebook: www.facebook.com/urayasadoc

1日何本観ても
この料金です!

入場料金

1day パス (日付指定) 前売・事前予約 1,600円 当日 1,800円 高校生以下 1,000円

2day パス (2日通し券) 前売・事前予約 2,999円 (当日の販売はありません)

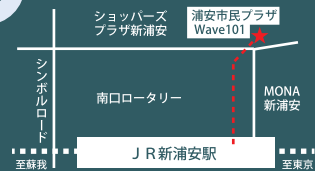
アフター6パス (各日18時より入場可) 当日 999円 高校生以下 500円 (前売・事前予約なし)

●うらやすドキュメンタリーテークのサポーターの方は当日料金から200円引き

●事前予約は7/15 (金) までにホームページから、もしくはお電話でお申し込みください

お問い合わせ先 浦安ドキュメンタリーオフィス TEL: 070-5459-9205 E-mail: info@urayasu-doc.com

会場



・JR京葉線新浦安駅下車 南口徒歩2分
・千葉県浦安市入船1-4-1 ショッピングプラザ新浦安4F

7/18 (月祝) 開場 10:00 愛すべき月曜日

愛すべきおばあちゃん

徘徊 ママリン87歳の夏 10:30



監督: 田中幸夫 2015年/日本/77分

大阪、北浜。昼夜の別なく徘徊する母と見守る娘。そこにあるのはユーモア溢れるシュールな会話。「ここ刑務所?」「ママはそろそろ死んでもいいお年頃や」。母娘のズレまくりの掛け合いに思わず爆笑! 従来の認知症ドキュメンタリー映画のイメージを覆す傑作が大阪から生まれた。

愛すべき子どもたち

さとにきたらええやん 12:30

★重江良樹監督



監督: 重江良樹 2015|日本|100分

日雇い労働者の街で38年にわたり活動を続ける「こどもの里」。学校帰りに遊びに来る子どもや、様々な事情から親元を離れて一時的に宿泊する子ども、その親たちも休息できる貴重な地域の集いの場である。困難にぶつかりながらもたくましく育つ子どもたちと、彼らを支える職員、街に暮らす人々の奮闘を描いていく。

愛すべきおっちゃん

五島のトラさん 14:45

★大浦 勝監督



監督: 大浦 勝 2016/日本/114分

「五島うどん」の製麺業を営むトラさん一家9人の22年にわたる物語。子どもたちは毎朝交代で5時に起床、うどん作りを手伝ってから登校する。お金の価値や物作りの喜びを家の手伝いから学ぶ。現代社会が忘れかけている「家族」を描いた話題作。今夏劇場公開前の特別上映が浦安で実現。

2015年 第24回FNSドキュメンタリー大賞グランプリ
2015年 第53回ギャラクシー賞奨励賞

公開シンポジウム

私がドキュメンタリーを愛する理由 17:15

17:15

映画に関わる仕事に「配給」という役割がある。どれほどの大作や力作も、配給なくして上映の機会を得られない。興業的な成功が見込めなくても、ドキュメンタリー作品に特化して映画を届けようとするゲストに改めて聞く、「なぜドキュメンタリーなのですか?」

ゲスト

大澤一生さん (ノンドキュメンタリー代表)
木下繁貴さん (合同会社東風代表)
小林三四郎さん (太秦株式会社代表)

愛すべきそのファッション

ザ・トゥルーコスト 〜ファストファッション 真の代償〜 18:45

18:45



監督: アンドリュー・モーガン 2015/アメリカ/93分

この数10年、服の価格が低下する一方で、人や環境が支払う代償は劇的に上昇してきた。華やかなファッション業界の闇に焦点を当て「服に対して本当のコストを支払っているのは誰か?」という問題を提起する。身近なファッション産業の今と、向かうべき未来を描き出すドキュメンタリー。

(20:20頃 終了予定)

映画祭の「クラウドファンディング」を実施しています。どうかご支援ください! → <https://camp-fire.jp/projects/view/7620>